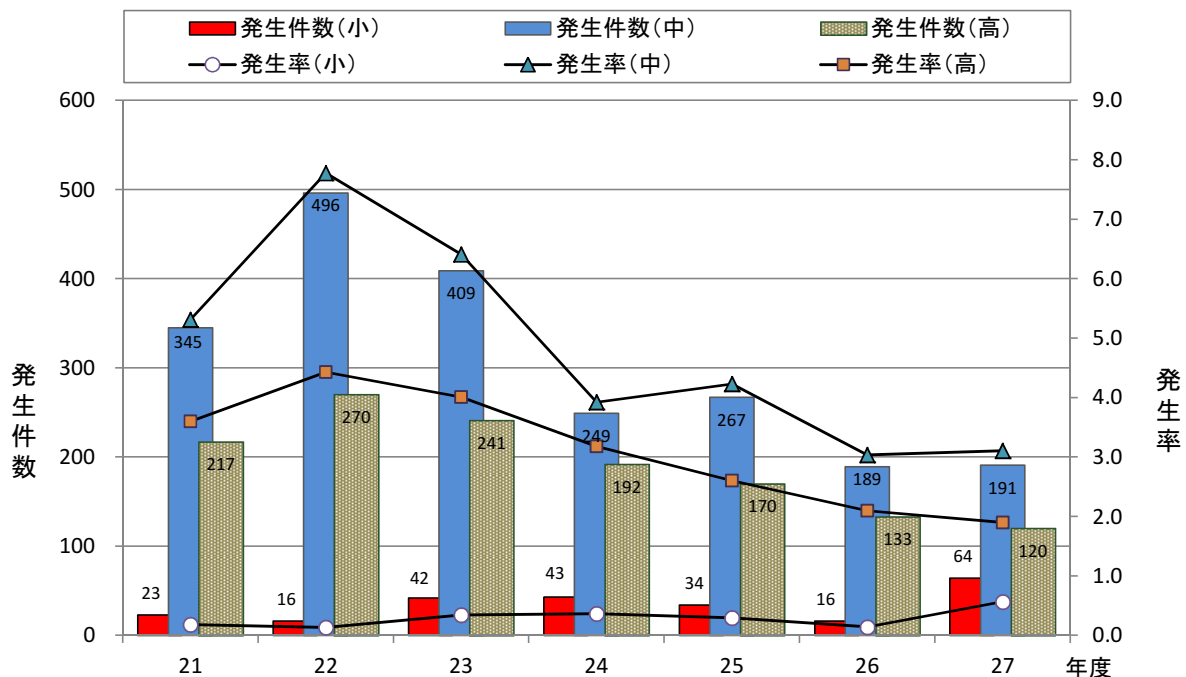


平成27年度 暴力行為の状況について
(県内国公私立・小中高等学校)

心の支援課

1 校種別発生件数及び発生率の推移



年 度		21	22	23	24	25	26	27
小 学 校	発生件数(件)	23	16	42	43	34	16	64
	前年度増減	▲5	▲7	26	1	▲9	▲18	48
	発生率 県	0.2	0.1	0.3	0.4	0.3	0.1	0.6
	発生率 国	1.0	1.0	1.0	1.2	1.6	1.7	2.6
中 学 校	発生件数(件)	345	496	409	249	267	189	191
	前年度増減	70	151	▲87	▲160	18	▲78	2
	発生率 県	5.3	7.8	6.4	3.9	4.2	3.0	3.1
	発生率 国	12.1	12.0	10.9	10.7	11.3	10.1	9.5
高 等 学 校	発生件数(件)	217	270	241	192	170	133	120
	前年度増減	0	53	▲29	▲49	▲22	▲37	▲13
	発生率 県	3.6	4.4	4.0	3.2	2.6	2.1	1.9
	発生率 国	3.0	3.0	2.8	2.8	2.3	2.0	1.9
合 計	発生件数(件)	585	782	692	484	471	338	375
	前年度増減	65	197	▲90	▲208	▲13	▲133	37
	発生率 県	2.3	3.1	2.8	2.0	1.9	1.4	1.6
	発生率 国	4.3	4.3	4.0	4.1	4.3	4.0	4.2

- (注) 1 調査名: 文部科学省「平成27年度児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」
 2 高等学校においては、平成25年度から全日制・定時制課程に加え、通信制課程を調査対象とした。
 3 平成27年度調査対象校: 県内国立・公立・私立小・中・高等学校682校
 4 発生率: 児童生徒1,000人当たりの暴力行為発生件数(暴力行為発生件数/全児童生徒数×1,000)

・ 県内国公私立の小・中・高等学校の児童生徒が起こした暴力行為の発生件数は、小学校64件(前年度比48件増)、中学校191件(前年度比2件増)、高等学校120件(前年度比13件減)である。

2 校種別・内容別件数

〔単位：件〕

校種	対教師暴力			生徒間暴力			対人暴力			器物損壊			合 計		
	25	26	27	25	26	27	25	26	27	25	26	27	25	26	27
小 学 校	3	2	7	17	10	30	0	0	2	14	4	25	34	16	64
中 学 校	56	34	27	142	110	104	7	6	5	62	39	55	267	189	191
高等学校	8	8	6	102	75	80	5	6	8	55	44	26	170	133	120
計	67	44	40	261	195	214	12	12	15	131	87	106	471	338	375

(注) 器物損壊は、校内のみを集計

・形態別は、「対教師暴力」が40件（前年度比4件減）、「生徒間暴力」が214件（前年度比19件増）、「対人暴力」が15件（前年度比3件増）、「器物損壊」が106件（前年度比19件増）となっている。

3 課題と今後の対応

(1)現状

- ・発生件数は、小学校・中学校が増加し、高等学校が減少。
- ・国の発生率に比べて、県の発生率は小学校、中学校では低く、高等学校は同じである。

(2)課題

- ①児童生徒理解および信頼関係の構築
- ②自尊感情・規範意識の醸成
- ③暴力行為の背景にある 本人の特性や家庭環境などへの組織的対応

(3)今後の対応

- ① 人権感覚・規範意識を育てるための教育活動の充実
 - ・「人権教育推進プラン」(平成23年3月)を基本に据えた学校づくり
 - ・命の大切さ、被害者の視点などを取り入れた道徳・人権教育等の推進
 - ・スクールサポーターなど地域人材を活かした非行防止教室、ボランティア活動等の実施
- ② 教育相談体制の充実による暴力行為の前兆の発見や早期対応
 - ・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、子どもと親の相談員等の相談・支援体制の充実
 - ・問題行動のサインをキャッチするための児童生徒との信頼関係の構築
- ③ 暴力行為への毅然とした対応と指導体制づくり
 - ・校内における一致した指導方針の共有と指導体制の確立
 - ・家庭・地域・関係機関(警察、児童相談所、保護観察所、家庭裁判所等)との一層の連携